

人工妊娠中絶における女性の「割り切れなさ」について

－ 田中美津の「とり乱し」論と妊娠葛藤相談の関係－

梅津広子（人間学コース）

（指導教員：堂園俊彦）

キーワード：胎児の生存権、コンテキスト、とり乱し、連帯と自律

序論

生命倫理学では、胎児の生存権や女性の選択権を基にした二分法によって中絶の問題が考えられてきた。しかし、実際に妊娠を継続するか、中絶するかという判断を迫られると、「胎児は人間でないから」「中絶は女性の権利だから」という理由を基に決断しようとしてもしきれない、という一種の「割り切れなさ」のようなものを感じる人は多いのではないだろうか。また、中絶の問題を考えるさいには、このような気持ちを感じる女性が自分自身の気持ちにしっかりと向き合った上で、納得して決断できるような支援の方法を考えることが必要なのではないか。

そこで本論文は、以下の二点を目的とする。第一に、中絶をめぐる従来の議論の問題点を確認し、田中美津の議論を用いて、女性の割り切れなさをより適切に理解する。第二に、中絶に悩む女性を支える支援方法について検討する。

第一章 胎児の生存権の有無

第一節 胎児を人と見なす立場：カトリック

カトリック教会が胎児を人として認め、中絶を厳しく批判するのは、神の似姿である「人間」という種そのものに高い価値を見出しているからである。人間の生命は受精の瞬間から始まるとする彼らの枠組みにおいては、人間の生存権は、受精の時点から守られなければならないため、いかなる理由があろうと胎児を中絶することは認められないのである。

第二節 胎児を人と見なさない立場：パーソン論

パーソン論者であるピーター・シンガーによると、倫理的に適切であるのは、「ホモ・サピエンスという種の構成員」という生物学的意味としての人間ではなく、「理性的で自己意識のある存在」としての人格を尊重することである。そして、このように人格に特別な価値が付与されることによって、胎児をはじめとする人格ではない存在の生命を奪うこと自体は不正ではないことになる。

このような彼の議論に対して、「胎児に生存権はあるのか」という点のみが問題とされている、という批判が示される。しかしこの傾向は、前述したカトリックの議論にも見られる。両者は、「胎児には生存権があるのか」という問いに決着がつけば、人工妊娠中絶の問題は原則的に解決可能であると考え

ているのである。

第二章 女性のコンテキストの配慮

第一節 女性と中絶

フェミニスト倫理学者のスーザン・シャーウィンは、中絶の正当性において普遍的なルールを定めることや、胎児の道徳的地位にのみ注意を向けることに疑問を呈する。なぜなら、女性が妊娠に至るまでの経緯や、社会的、経済的状況など、一人ひとりの事情はそれぞれであり、それを考慮しなければ中絶の正当性は判断できないはずだからである。フェミニストの視点において中心となる道徳問題は、妊娠が女性の身体のなかで生じ、かつそれが女性の人生に深い影響を与えるということなのである。

第二節 フェミニスト倫理における胎児

フェミニストの多くは、胎児の地位は相対的なものであると見なしている。胎児は特定の女性の身体のなかで発育するため、胎児の存在は女性との関係で規定されることになるからである。女性と胎児の関係は明らかに非対称的であり、母体である女性を介さずにそれ以外の人と関係を結ぶことができない胎児は、社会的関係の能力が十分に発達していないため、人格とは言えない。

しかしこのことは同時に、女性は自分自身と胎児を取り巻く社会的関係を考慮に入れた上で、中絶をするかしないか決定する責任と権利を有していることを意味する。

第三節 コンテキストの配慮

シャーウィンによると、妊娠中の女性こそ、複雑に関係する要因を関連づけ、周囲の人たちの欲求や利害を配慮した、すなわち個別のコンテキストをもっとも適切に考慮できる唯一の人物である。中絶を選択する当人である女性しか、すべての関連する事柄の重要性を判断できないため、中絶の決定権は、哲学者や道徳家、医師などではなく、女性にある。

しかし、女性だけで判断することがよい、というシャーウィンの立場には疑問もある。自分では明確な意思をもって決断したと思っても、実は自分の気持ちに十分に向き合えていなかったと後になって気づき苦しむこともある。こうした事態を適切に理解するために、田中美津の取り乱しに着目する。

第三章 人工妊娠中絶と「とり乱し」

第一節 社会構造と女性の「とり乱し」

田中によると、「とり乱し」とは、自分の中に矛盾する自己が同時に存在していることに気づき、おろおろしてしまうみっともないさまを指す。本音とたてまへは自分の中で混在しており、きれいに二分できるものではない。また、本来たてまへであったはずの論理が、自分では気づかないうちに無意識の領域にまで浸透していることがある。だから、本音を言葉で表現しようとしても、どこまでが自分の本当の意味での本音なのかは定かではないままに終わってしまう。すなわち、矛盾する自己の間で「とり乱している」という状態のみが自分の本音といえるのである。

また、女性の無意識の領域にまで浸透しているのは、〈女は女らしく〉というたてまへである。これには、女は自分ではなく、男に向かって自己表現することのみ存在証明を図ることができる、という社会構造が関係している。

第二節 物としての子宮ともの想う子宮

生産性の論理を背景に成立している近代の社会は、女の子宮を新たな生産力を生み出す子宮み機械、すなわち物として扱う。しかし田中によると、これは本来のあり方ではない。というのも女性は、子宮のうちに「己れの中の自然」をもっており、その自然は生命力を持っているからである。その生命力と渡り合うことで、女は物事を己に引き付けて考え、総体的に捉え、さらには生の意味を見出すのである。田中はこのような役割を果たす子宮を、「もの想う子宮」と呼ぶ。

「もの想う子宮」を失った女性は、社会から与えられた「育児＝女の生きがい」という女としての役割を押し付けられ、「(ありのままの自分らしく)生きていない」と感じて、それを原点にして、自己の中の自然(子宮)とのかかわりの中で自ら生の意味を見出していくことができなくなっていた。そのため女性は自己肯定できず、自らの生の意味を男から引き出さなければならなかった。すなわち、男に向かって存在証明するしか道はなかったのである。

第三節 「出会い」と「とり乱し」

「もの想う子宮」を取り戻すには、自分の中に矛盾した自己が両立して存在することを認め、ありのままの自分を肯定し、生命の輝きや可能性を取り戻すことが必要である。その際に重要となるのが他者との連帯である。他人のとり乱しを受け、自分もとり乱すことを田中は「出会い」と呼び、言葉よりも確かなコミュニケーションの方法とする。この「出会い」により、その人と本音で語り合うことを通して、人は他者と繋がっていくことができるのである。このように、「出会い」を通して他者とつながることは、個が自律的な存在であるために必要なことなのである。

第四節 「とり乱し」の場としての妊娠葛藤相談

ドイツにおいて、墮胎罪の「構成要件を実現しない」ための条件の中に、「妊娠した女性が三日前までに法定の相談を受

ける」ことが含まれている。これは「相談規定」と呼ばれ、この規定にもとづき行われる相談が「妊娠葛藤相談」である。

妊娠葛藤相談の特徴として、相談が義務づけられているという点と、相談の目的は生命保護にあるという点の二点が考えられる。この二つの特性は、前者は相談を受けるかどうかの決定を女性に許さないという点において、後者は女性が妊娠の継続へと誘導されるかもしれないという点において、女性の自律性を脅かしているともとれる。

このような問題点を乗り越えるためには、現場のカウンセラーと来訪する相談者の相談に対する姿勢が重要であると小椋は言う。カウンセラーのノーマ・スクロップ氏は、この問題に真剣に向き合い、それを自分の言葉で女性に伝えている。すると、相手の女性もそれに応じるように自身の気持ちを素直に打ち明けるようになるという。「女性の自律や決定を否定する枠組みの中で働く私」と「女性の自律や決定を尊重した相談の場をつくりたい私」の間でとり乱していることを女性にあえて伝えることが、開かれた対話には必要なのである。このような妊娠葛藤相談の形こそ、田中の言う「とり乱し」を通じた「出会い」の具体的なあり方なのではないだろうか。

結論

このように、ドイツの妊娠葛藤相談は、カウンセラーの努力によって、田中の思想と近づけられることが分かった。本論文では、基本的に人工妊娠中絶を女性の問題として位置づけ、女性の立場からの解決を模索したが、もちろん、中絶の問題は女性だけの問題ではない。実際、妊娠葛藤相談は、性や生殖に関する全般的相談の一種であり、男性も含むすべての人がそうした相談を受ける権利を有することが規定されている。性の多様化が進む現代社会において、男性やLGBTQの人々にとって中絶が何を意味するのか、そうした人々を支援するには何が求められるのかを、さらに検討していく必要があるだろう。

主な参考文献

- ピーター・シンガー『実践の倫理』(山内友三郎・塚崎智他訳)、昭和堂、1999年
- スーザン・シャーウィン『もう患者でいるのはよそう』(岡田雅勝、服部健司、松岡悦子訳)、勁草書房、1998年
- 田中美津『いのちの女たちへーとり乱しウーマン・リブ論』、河出書房新社、1992年
- 小椋宗一郎「ドイツにおける『妊娠葛藤相談』についてー義務づけられた相談をめぐる諸問題」、『生命倫理』17(1)、2007年、207-215